

信を通す

8

心を通わすすべは



富山市長
森 雅志 氏
(もり・まさし)

著作権の関係上、表示できません。

「なぜ男と女は4年で嫌になるのか」(姫野友美著 幻冬舎)が面白かった。

同書は愛は4年でさめるものと言いつ、そのメカニズムを次のように解説している。恋愛感情はフェロニチルアミン(PEA)というホルモンに支配されており恋に落ちると体内にこのホルモンが分泌される。ところがPEAの有効期限は短く、恋をして3年もするとPEAが減少して相手に飽きが出てしまう。その結果、3年目の浮気や4年目の離婚が増える結果になるらしい。

一方、落ち着いた結婚生活を重ね、温かい家庭を構築すると、今度はセロトニンというホルモンが分泌される。このセロトニンは穏やかな心地よさを高める物質であり、この物質に支配されると他人もつらやむ仲睦まじい夫婦の出来上がりということになるらしい。したがってPEAが消滅する前にセロトニンの分泌を促し、夫婦が心を通わすことでその分泌を保つことが出来れば穏やかな夫婦生活を継続できるというのだ。

そのためにはどうすれば良いのか。共通の趣味や旅行など心をつなぐすべはいろいろあると思うが、なんと言っても大切なことは話し合うことだと僕は思う。夫婦であれ親子であれ友人関係であれ、あらゆる人間との関係を支えているものは相互理解と信頼であり、それを構築する手段は話し合うことに尽きると思うからだ。

それだけにいつも言葉を大切にし、自分の言葉で語ることを心がけたいと思う。真情のこもった言葉は必ず人の心に響くはずだ。オバマ大統領の演説に歓喜の声を上げていた大観衆の様子を見ていて改めてそう思った。個人と個人との関係だけではなく、行政と市民の間においても、企業と顧客との関係においても良く語り、こが求められる。セロトニンからの強引な誘導になちてしまつたが、心を通わすすべは真情こもる言葉なのだとして強調してこの稿を閉じたい。